

何をどう変えるべきか

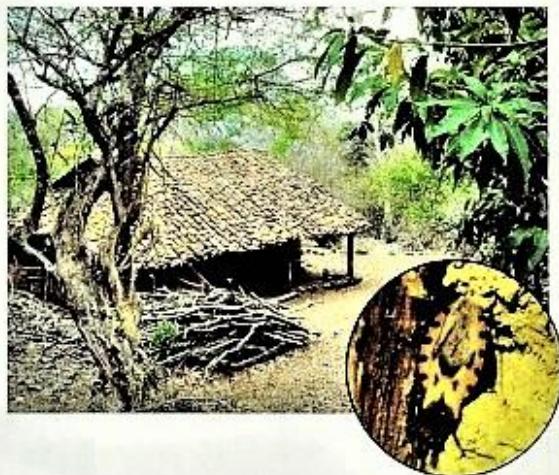
プラネタリー・ヘルス

長崎大学の挑戦

12元

プラネタリーヘルス学環 准教授

吉簡 滑夫



中米の田舎の家とサシガメ「円内」

スの視点を持ち込む」という
なるでしょうか？ まず思
いつくのは、人家にすみつ
くサシガメも生態系の一部
だとみなし、駆除は生態系
破壊につながるからやめる
べきだ、という見方です。
ただ、人がシャーガス病
にかかるのも成り行き任せ
ということになってしまい
ます。人間と地球の健康の
バランスを追求するグラン
タリーヘルスにはじま
いでしょう。次に考えられ
るのは、森の再生です。本
來自然界にいたはずのサシ
ガメが人家にすみつくよう
になつたのは、もとの生息
地が破壊されたからだとい
う説があります。そこで、
森を再生することで人家に
来るサシガメを減らし、人
への寄生虫感染も減らすと
いうアプローチが考えられ
ます。しかし、これは殺虫
剤に比べてはるかに複雑
で、長期的な取り組みが必
要となり、その実現は困難
でしょう。

グラネタリーヘルスを理
念として掲げたあと、具体
的に何をどう変えるべきな
のか、実はまだ明快な答え
はありません。私は、これ
がグラネタリーヘルスのア
キレス腱ではないかと考え
ています。つまり、社会の
在り方や私たちの行動を変
える力がなければ、グラネ
タリーヘルスはいずれ誰か
らも見向きされなくなるか
もしれないのです。

かの頃から、公衆衛生医学
(Doctor of Public
Health : DrPH)
から博士の取得を目指して日々学んでいます。人間の教育プログラムでは「知識」を「行動」に変換する訓練を積みます。ハイテクリーベルスの看板のねじやD-PHを教わるのは、世界でも長崎大学が初めてではないと思います。ハイテクリーベルスをいい表現すればよいのか、といふ問いに、すぐに答えば出せません。学生も講師も共に議論しながら、実現可能なハイティアをこの学園から生み出し、世界に提案できることになります。

研究
ノート

そこで、長崎大学では、
昨年10月に「ラネタリーハル入学生団」を立ち上げ、
学問と実践をつなぐための